

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立末広小学校

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成29年4月18日(火)

3. 調査の対象

小学校第6学年、全児童

実施児童数(68 人)

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容(A問題)と、それらを活用する力などに関する内容(B問題)とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査(以下「児童アンケート調査」という。)を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査(以下「学校アンケート調査」という。)を実施する。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(国語)

1. 全体の傾向

「A区分問題」

・平均正答率の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率(本校 63/泉佐野市 71/大阪府 72/全国 74.8)

「B区分問題」

・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層が少なく、中・低位層が多く分布している。

平均正答率(本校 51/泉佐野市 53/大阪府 54/全国 57.5)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

国語A	特徴がみられた設問
【話すこと・聞くこと】 ○目的や意図に応じて、情報を関連付ける力に課題がある。 1 話し合いの説明として適切なものを選択する。 (54.4/69.2) 【読むこと】 ○目的や意図に応じて、図と表を関連付けて読む力に課題がある。 3 学校新聞を書くために、資料のどこを中心に読むとよいか、選択する。(64.7/74.4)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○漢字を書く、読む力に課題がある。 6 古文の一部を音読し、気付いたことの説明として適切なものを選択する。(58.8/71.1) 7 漢字を書く。 (1) 参加<u>たいしょう</u> (25.0/42.0) (2) き<u>ぼう</u>者 (50.0/80.0) 漢字を読む。 (5) 箱を<u>置く</u> (48.5/76.8) (6) <u>指示</u> (76.5/94.5)

国語B	特徴がみられた設問
【話すこと・聞くこと】 ○話の構成を工夫して話す力に課題がある。 1 三 話の構成を工夫して話すことができるように、適切な内容をまとめて書く。 (57.4/69.2) 【書くこと】 ○目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く力に課題がある。 2 三 資料のアドバイスを基に、必要な内容を書く (17.6/33.0)	【読むこと】 ○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える力に課題がある。 3 一 登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、適切な言葉を選択する。 (66.2/75.9) ○物語の具体的な叙述を元に理由を明確にして、自分の考えをまとめる力に課題がある。 3 三 物語の内容を基に、自分の考えをまとめて書く。 (30.9/43.7)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	57.3	60.5		3.2
国語の勉強は大切だと思いますか	86.8	91.2		4.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	80.9	82.2		1.3
読書は好きですか	66.2	74.3	◇	8.1
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいですか	80.9	59.5	○	21.4
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	67.7	68.0		0.3
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	63.2	63.4		0.2
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	64.7	74.8	○	10.1
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	66.2	77.2	○	11.0
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	66.2	86.6	○	20.4
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	47.0	66.1	○	19.1

○「国語の勉強は好きですか」の項目では、本校が昨年度の51.2%から本年度は57.3%、全国が昨年度の58.3%から60.5%に上がり、本校・全国ともに上がっている。「国語の勉強は大切だと思いますか」の項目でも昨年度の本校の83.3%から本年度は86.8%と上がっている。また、本年度の86.8%は全国と比べ、大きく差がない。国語に対する興味・関心が高く、国語の必要性も感じているようだ。

○「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という項目では、全国と大きく差がない。しかし、「考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」の項目や、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいですか」の項目では、全国に比べ、21.4ポイントも大きく低位にある。自分の考えを表現しているものの、目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書く力に課題がある。国語Bの解答結果からも、文章の中の必要な部分を抜き出し、要約する力の弱さがうかがえる。

○「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」の項目で「書く問題を解答しなかったり、途中であきらめてしまった」と答えた児童が、33.8%であった。しかし、「調査問題の解答時間は十分でしたか」の項目では、全国に比べ、国語A、Bともに、20ポイント前後、低位だった。時間が足りないと感じながらも、解答しなかったり、諦めてしまったりしている。与えられた時間内に、文章を読み、集中力を持続させ、身に付けた国語の力を出し切れるよう、普段の学習から様々な読解問題などに挑戦する必要がある。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(算数)

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上・中・低位層が、ほぼ均一的に分布している。
平均正答率(本校 65/泉佐野市 76/大阪府 78/全国 78.6)

「B区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層がかなり少なく、中・低位層が多い。
平均正答率(本校 34/泉佐野市 42/大阪府 45/全国 45.9)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

算数A	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○商を分数に表すことに課題がある。 2(4) $5 \div 9$の商を分数で表す。(44.1/69.2) 【量と測定】 ○任意単位による測定について理解することに課題がある。 4 ものの重さや長さを同じ大きさのいくつかで比べているものを選ぶ。(54.4/70.7)	【図形】 ○正五角形は、五つの合同な二等辺三角形から構成していると理解することに課題がある。 6 円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く。(58.8/74.1) 【数量関係】 ○資料から、二次元表に分類整理し、合計欄に入る数を求める課題がある。 9(1) 資料の数値を二次元表のどこに入るか、選ぶ。(67.6/88.0) 9(2) 二次元表の合計欄に入る数を書く。(35.3/62.8)

算数B	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することに課題がある。 1(3) カードの数の差を使って、2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを記述する。(25.0/38.6) 2(1) 小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを記述する。(30.9/40.4)	【量と測定】 ○仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求めることに課題がある。 3(2) 7m20cmをこえた部分に着目した平均の求め方を、言葉や式を使って書く。(7.4/26.1) 【数量関係】 ○割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことに課題がある。 4(2) 学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表す。(13.2/29.3)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	61.7	65.9		4.2
算数の勉強は大切だと思いますか	91.2	92.0		0.8
算数の授業内容はよく分かりますか	72.1	80.6	◇	8.5
算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思いますか	69.1	75.7	◇	6.6
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	75.0	81.1		6.1
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.6	69.1		1.5
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.3	89.1		3.8
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	76.5	81.4		4.9
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	72.1	82.6	◇	10.5
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	85.3	86.0		0.7
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	48.5	69.9	○	21.4
調査問題の解答時間は十分でしたか(算数A)	57.3	87.1	○	29.8
調査問題の解答時間は十分でしたか(算数B)	44.1	52.5	◇	8.4

○「算数の勉強は大切だと思いますか。」という項目では、本校が昨年度の 88.1%から本年度は 91.2%に、全国が昨年度の 91.9%から 92%にと上がり、本校の 91.2%は全国と比べ大きく差もなく、児童の算数の勉強に対する興味・関心が高い傾向にあることが分かる。

○「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」という項目では、本校 48.5%に対し、全国 69.9%と 21.4 ポイントの差がある。無解答率が全国に比べると問題によっては 30 ポイント以上も高いものもある。既習の知識を使って諦めずに解決方法を考えるという自力解決の姿勢が弱く、分からなければ安易に諦めてしまうという傾向がうかがえる。

○「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」という項目では、本校 85.3%に対し、全国は 86.0%と大きな差がない。これまで算数の授業の中で行ってきたノート指導の成果が徐々にあらわれていると考えられる。また、児童の算数の学習にする意欲が高まってきていることがうかがえる。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(児童質問紙より)

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1, 2と3, 4はそれぞれ同じ傾向と捉える。(例えば, 1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない)

また, それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し, それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5ポイント以上差のあるものの中で, 特徴的な項目を列挙した。さらに下線部に関しては10ポイント以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本 校 < 本 校 回 答 率 / 全 国 回 答 率 >
【家庭生活の様子】	早寝・早起き・朝食などの基本的な生活習慣は、全国を下回っている。読書をすすんでする児童が少ない。テレビやゲームの時間のルールを家の人と決めている児童も少ない。	○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか <77.9/91.2> ○毎日、朝食を食べていますか <85.2/95.4> ○学校の授業以外に、一日どれくらい読書しますか (1時間以上) <19.1/36.5> ○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、図書館にどれくらい行きますか (月1回以上) <19.1/38.6> ○テレビやゲームの時間のルールを家の人と決めていますか <36.7/58.3>
【家庭学習の様子】	テレビやゲーム、スマートフォンの時間が長いのに対して、家庭学習の時間が短い。宿題はするものの、自ら進んで、学習の計画を立て、予習復習など、取り組んでいない。	○普段どれくらいテレビ・ビデオを見ますか (3時間以上) <44.1/32.7> ○普段どれくらいゲームをしますか (3時間以上) <22/17.6> ○普段どれくらい携帯やスマートフォンで、通話、メール、インターネットをしますか (3時間以上) <10.3/7> ○普段、学校の授業以外に、どれくらい勉強しますか (1時間以上) <75/88.7> ○家で、宿題をしていますか <98.5/96.9> ○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか <48.5/64.5> ○家で、学校の復習をしていますか <30.9/53.8>
【学校での 学習の様子】	学校に行って、友達に会うことが楽しい児童が多い。自分たちで課題を見つけ調べて発表する学習や、話し合う、意見をまとめる活動を、もっと積極的に取り入れる必要がある。	○学校に行くのは楽しいですか <88.3/86.3> ○学校で、友達に会うのは楽しいですか <95.6/96.4> ○先生は分かるまで教えてくれますか <88.3/85.1> ○学校のきまりを守っていますか <79.4/92.6> ○「総合的な学習の時間」で、自分で課題を見つけ、調べ、発表するなどの学習活動に取り組んでいますか <53.0/69.8>

本校の取り組み

◎これまでの取り組み

(1) 研究主題と研究体制

昨年度までの研究教科であった算数の【めあて】【見通し】【自力解決】【まとめ】【ふりかえり】の流れの問題解決型学習を、本年度も引き続き行っている。ペア学習やグループ学習の場を積極的に設け、発表の型(まず・つぎに・だから)を示し、一人ひとり発表カードをもとに自分の考えを発表している。その発表の場で、自分の考えや意見を伝える力を育むために、本年度、国語を中心とした「話すこと・聞くこと」を研究主題とし、相手に自分の考えを伝える力を育む授業づくりを進めている。

(2) 学習規律の確立 「学びをつくる5つのとびら」

学習に対する姿勢のルールである「学びをつくる5つのとびら」に学校全体で取り組んでいる。①筆箱の中身をそろえよう②下敷きをしよう③姿勢を正そう④友達の話进行聞こう⑤自分の考えを発表しよう、の5項目から1つの課題を各月重点目標として各学級に掲示し、学習基準の確立に努めている。そして毎週1回、各学級でふりかえりの時間も設け、全学年が同じルールで学習に向き合えるようにしている。

(3) 少人数・習熟度別指導

3年生から6年生は、学級担任と少人数担当による習熟度別に分割した授業を行い、低学年ではチームティーチングで、児童一人ひとりにあった個別学習を行っている。

毎日の宿題を必ずする「宿題指導」も実施している。つまずきをなくすことをねらいとし、宿題で間違った問題や分からなかった問題を解きたい児童、宿題をしてこなかった児童に対して、少人数担当や学力向上アドバイザーが中心になり、毎日昼休み、算数教室で支援を行っている。

年2回「診断テスト」を実施し、子どもたちの苦手な項目を分析する。そして、朝の10分間の「かがやきタイム」でその弱点を中心にプリント学習を実施している。

(4) 家庭学習の推進

家庭学習を支援するために、年度初めに「家庭学習のすすめ」を全児童に配布し、学期に1回、「家庭学習 week」を実施し、積極的に家庭学習に取り組む習慣の確立に努めている。

◎これからの取り組み

これまでの研究教科の算数、本年度研究教科の国語を重点的に取り組んでいるにもかかわらず、今年度の全国学力・学習状況調査の結果では、依然として全国平均との差があり、引き続き研究を深める必要がある。本校の課題を改善するためには、以下のことに取り組んでいく。

- ・これまで取り組んできた算数の問題解決型学習はこれからも継続して行っていく。今回の全国学力・学習状況の結果からも、根拠を説明する力や自分の考えを表現する力に課題がある。自分の考えを書く活動とともに、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。また国語における書く力を高めるため、ノートのまとめ方や自分の考えを書くことや作文指導等を取り入れた指導を行っていく。

- ・少人数・習熟度別指導では基礎基本の定着をはかるとともに、応用的な問題を解くなど、個に応じた習熟度別学習をより効果的に行っていく必要がある。また、つまずいた問題をできないままにしないよう、宿題指導をはじめ、個に応じた学習指導の徹底を引き続き行っていく。

- ・児童質問紙から、テレビやゲーム、スマートフォンの時間が長いのに対し、家庭学習の時間が短いという課題が明確である。家庭でのテレビやゲームの時間を決め、自ら家での学習の計画を立て、予習、復習など、進んで行うよう勧めていく。また、授業での図書室活用を積極的に行い、読書量を増やすよう、読書活動を継続していく。

- ・学習規律や生活面についてのルールを全クラスで同じ基準で守れるよう取り組んでいるものの、「学校のきまりを守っていますか」の質問項目が大変低い。一人ひとりのルールに対する意識をより一層高めていく。

- ・総合的な時間の中で、自分たちで課題を見つけ、調べて発表する学習や、話し合う、意見をまとめる活動を、もっと積極的に取り入れていく。